

第2回 屋久島町廃棄物減量等推進協議会 会議録

日 時：平成30年9月26日（水）午後1時30分～午後3時40分

場 所：屋久島クリーンサポートセンター

【内容】

事務局：ただ今より第2回廃棄物減量等推進協議会を開催します。

早速協議に入ります。会次第2第1回廃棄物減量等推進審議会議事録の確認についてです。

第1回議事録について、修正等ありませんか。（意見は特に挙がらず）無いようなので、この議事録をHP等で公表します。よろしくお願ひします。

それでは。会次第3 郡内の廃棄物処理の状況についてです。事務局説明をお願いします。（郡内の廃棄物処理状況について説明を行う。）

皆さん、質疑はありませんか。ランニングコストが他の施設と比べて高いということはお気づきですよ。これらについて、ご意見ありませんか。

委 員：屋久島町の単価が高くなっている原因は把握していますか。

事務局：原因としては、施設の維持管理費や機器の修繕費等が高額な為である。機器は、一つ壊れると1,000万円程修繕にかかるものもある。また、電気代に関しても年間約7,200万円掛かっており、ほかの自治体に比べてもほぼ倍近くかかっている。それから、燃料費。燃料は重油を24時間焚いているので高くなる。炭化施設の場合は、高温のガスで処理をしているので、温度が下がると重油を焚いて温度を上げる。ほかの団体は、ごみを燃やしているので、燃料費がかからない。

委 員：粗大ごみについて伺います。種子島は直接搬入のみで間に合っているということか。

事務局：回収はしておらず、直接搬入ということでした。

委 員：みんなが搬入するのは難しいと思うのですが。

事務局：搬入できない方は、業者に頼んでいると思います。

委 員：種子島のそれぞれの施設はどこにあるんですか。

事務局：南種子は、町中から近いです。西之表は遠いところで20km位あります。屋久島の場合、栗生からだとも50km位あるので条件が違ふ。栗生の方がここまで持ってくると大変だと思う。

委 員：ランニングコストを見るには、この資料だけでは判断は難しい。突発的な修繕はランニングコストの中に含めない方がいいと思う。人件費や搬入費など、面倒でもいくつも項目を分けてもらおうと見比べることができ、分かり易いと思う。

事務局：他の施設の内訳は教えてもらえませんでした。本町は3億1,000万円かかっている、その内訳として、委託料が1億6,500万円です。

委員：本町の分は、前回の会で大体分かったが、種子島との比較をする際は、金銭面では、同じ項目で数字を比較しないとわからない。収集方法については、今回の資料で分かった。粗大ゴミの対応を種子島と同じように直接搬入にすると金額が減るんだらうなという風を感じた。

委員：本町の現施設の問題点は、ここに書いている言葉だけで見ると、機器の補修が間に合わなくなり、トラブルが発生しているとあるが、じゃあ、何故、間に合うようにしないのと思う。そうするとお金も余計にかからないのではないかと読める。

事務局：定期的な補修を行った場合、修繕だけで7,000～8,000万円かかる可能性があり、財政的にも厳しい状況である。昔から定期的に修繕をしていけば、良かったのかもしれないが、ランニングコストを抑えるために先延ばしをしていき、それが積もり積もって今の状況がある。

委員：補修が間に合わない理由は、それだけ次から次に故障が起きているからである。

委員：この会は、施設の失敗を基に次に進めて、屋久島に見合った施設を作ろうかという会で、今私たちがしないといけないのは、種子島と違うコストの抑え方。粗大ごみについては、屋久島は回収回数を減らしたり、コストを下げの方法や、見直しをしてごみを減らす方法を検討する必要がある。屋久島は裕福だと思う。ばんばん買って、ばんばん捨てている。ごみをあまり出さずに抑えていく必要がある。今の施設はしょうがないので、改修をして莫大な経費を使うよりは、早くいい施設を作ることがこの会の目的。

事務局：それでは。会次第4 ごみ処理基本計画についてです。（計画について説明を行う。）皆さん、質疑はありますか。

委員：新しいごみ処理施設は何年度稼働を目指しているのか。

事務局：議会などでは、平成35年度稼働目標と説明している。国庫補助、財政状況等を勘案し、出来るだけ早期稼働を目指していきたい。

委員：それまでは、この施設を改修していかなければならないのか。

事務局：造る方針が決まれば、それに合わせた必要最小限の補修を行うことができる。

委員：前回の会の中で、5年後をめどに施設建設を目指すと話をされていた。種子島のストーカー方式、本町の方式、どちらが良いかわからないが、ストーカー方式の方が経費が安い。以前区連会が町に対し、ストーカー方式の設置を要望したと思うが、当時継続審議となった。処理方式の協議と並行して分別をどうするかを検討する必要があるのではないかと。分別を徹底すると前の会でも話が出た。住民に分別を徹底する方法を考えないといけない。

委員：これから、施設について色々と情報を収集してほしい。特にうちは離島なので、焼いた後の残渣が出てくる、そういったものの処理方法も含めて、情報を集めてもらい、審議会の中で紹介してほしい。その情報を聞いて

て検討を行うことができる。全国のもの、離島ゆえのもの、総合的に考えてほしい。

今、人口を出しているが、観光客の動向が反映されているのか。入っていないように思う。町の観光基本計画では35万人の観光客誘致を掲げている。この人数も反映してほしい。

事務局：ごみ量については、これまでの受入量を記しているのですが、観光客のごみも入っているが、今後の動向については、観光基本計画の目標数が抜け落ちているかもしれないので、再度検証したい。

委員：ごみ処理計画からは、観光客の動向が読み取れない。説明不足の感がある。住民と観光客と分けて考える必要があるのでは。観光客のごみは、事業系として、弁当殻やペットボトルなどがあり、事業ごみの量にもかかわってくるので、把握する必要があるのでは。

事務局：新施設のごみ処理能力量については、災害ごみの受入も想定して、多く設定しているが、ごみ量の推移は、人口と事業所数との推移に連動しており、観光客の推移とは連動していないかもしれない。

委員：これまでの反省を踏まえ、多面的に検討してほしい。

事務局：国が全国の廃棄物施設の状況を公表している。最近では焼却方式の施設が多い。本審議会の中では、施設の方針を打ち出してほしいと思っている。次の会から方針の検討を行っていきたい。

委員：ごみの細分別を家で実践したら、燃えるゴミが少なくなった。ただ、分かりづらいものが多かったので、南種子の分別表と同じような写真を活用したものが分かり易いのではないか。あと、南種子は燃えるゴミの袋に名前を書くようにしているが、プライバシーの問題などどうだろうとおもう。

委員：問題があるかも。

事務局：名前を書くということは、以前取り組もうとした。各集落の中で説明をしたが、特に女性の生理用品等について抵抗があった。名前を書くことで責任を持ってもらえる。今後検討事項かなと思う。

委員：携帯トイレはどうしているか。

事務局：直接焼却している。

委員：今後、燃やせるものは燃やす、金になるものは外部に送る。携帯トイレにしても自分のところで燃やすというものが良い。金がかかってもいいから、後年度良かったと思えるものを作ればよい。

委員：小型の焼却施設で性能が良いものがあれば、補助を出して、家庭で処理をさせても良いのではないか。メーカーに働きかけるなど模索してよいのではないか。

事務局：一般の小型焼却施設は、安くても3,000万円。それよりも安いのは基準を満たさないと思う。

委員：今、全国的に作られている施設は、基準を満たしていると思う。それから、事業所数は把握しているのか。

事務局：統計屋久島で把握している経済センサスの数値を用いている。平成 26 年度 1,118 事業所ある。その中では、小売業と宿泊飲食業が多い。

委員：事業所からどれだけの量が出ているという把握と、啓発活動はどうしているか。

事務局：悩みどころで、検討しているが、小規模事業所の方は一般ごみに出していると思う。事業系ごみは、事業系で出してねと周知をしている状況である。今後、収集はするが料金を変えるのかなど検討していく必要がある。

事務局：まずは、周知をすることが大切。具体的なことは検討中としか言えない。

委員：事業系と一般系をまとめて出すようにしてはダメだと思う。面倒くさくないようにしないとイケない。例えば、弁当殻は観光客がちゃんと処理してというと、観光の島なのにはありえないと思う。ごみの質や量も検討し、考えていかなければならない。観光業の方々の協力を得られなくなる。

委員：法律で決めていることだが、法律どおりしようとする、小さな業者さんを潰す可能性もある。努力していくしかないですねとしか言えないところもある。今後は焼却施設整備に行くしかないと思う。今の施設は処理前に裁断をしているが、裁断しなくてもよい施設が良いと思う。メンテが簡単、分別が簡単な施設が良い。異物の混入をどうすれば止められるのが難しい。分別が良くなるように個人でチラシを作って周知しようとしている。他の地域から持ち込まれるのが困る。分別が悪いものが持ち込まれてくる。どうしたらよいのか。分別をもっとよくしていかないと、施設の損傷を引き起こしてしまう。

委員：理想としては、簡単でメンテに経費が掛からないものが良い。その前段階で分別をどうするかが大切。写真で分かり易くすることはよい。全てのステーションを美化推進委員で対応することは難しいと思う。説明をしっかりとっていく必要がある。例えば、納豆の容器やラップを水洗いしたら細分別が出来る。その取り組みを住民に周知することをどこまで徹底させるか。放送だけでは難しい。

委員：先程の写真の件。老人クラブでも今の分別表はわかりづらいと話がある。写真があると分かり易い。老人会の研修会があるので、周知を行ってほしい。分別は難しい。服についているチャックなどの対応。昔やった説明会をまたやってほしい。新施設ができるまでの今後の 5 年間の課題である。

委員：私も迷う。服は切ったりするが、それを老人にさせるのは酷だと思う。それから、分別をする時に、汚れがひどい紙ごみは燃えるゴミ、それ以外は紙類という汚れがひどいの線引きが分かりづらい。そこを周知した方が分かり易い。

委員：とある区長と話をしたときに拠点回収について、それを行うと持って行く先が遠くなるという話が合った。それは困るということであった。難

しいと思った。

委員：鎌田さんのチラシを見ているが、分かり易い。昔の様にゴミ毎に袋を分けるのが良いのでないか。

事務局：袋を分けると経費が掛かってしまう。そのため、今の形になった。それから、ゴミ毎に袋を分けると無駄に袋をそろえなければならない。

委員：しかし、今の施設を維持していくと考えたら、いろいろ取り組まないといけない。

委員：今、経費の話が出たが、これだけ、維持費がかかっている中で、袋を前の形に戻すのは微々たるもの。説明しやすいし、捨てる側も楽。住民にも少しは負担してもらわないといけない。いま、ステーションが近すぎるという話がでたが、少なくしても良い。収集回数も減らしてよい。そうして、負担を減らして、分別も少なくしていかないと難しいと思う。分別ごとに袋を決めた方がよい。少々経費が掛かっても簡単に出来る方法を考えないといけない。

委員：伐採ゴミ、廃家屋の廃材等を処理する破砕機等の購入計画はないのか。

事務局：今の所計画はありません。

委員：個人で廃材を持って行ったときは、くぎを抜く、50cm以内に切らないといけないということですね。

事務局：そうですね。個人の方は、業者に解体依頼し、産廃で処理しているものが多いと思います。

委員：新しい施設が出来たときの灰の処理はどうなるのか。

事務局：灰は必ず出てくる。灰は、現状処分場に入れられない。島外への処理になる。250tくらいはでる。

委員：今後、埋める施設を作るのか。

事務局：今の施設はスラグしか入れられない設計になっている。改良すれば入れられる。今後の検討事項である。

委員：造った方が安いのか。島外に出した方が安いのか。いろんな方法を検討しないといけない。

委員：島外に搬出した灰の利用方法は。

事務局：セメントの燃料・原料として活用している。

委員：その他について、事務局お願いします。

事務局：以上をもちまして本日の審議を終了します。皆様お疲れ様でした。